

騒音計測実験を開始

大 樹 JAXA 最適な飛行経路探る

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA、本部東京）は16日、町多目的航空公園でヘリコプターによる騒音計測実験を始めた。騒音を軽減するために最適な飛行経路の実用化が目的。今回は初めてクレーンを使って地上35メートルにマイクなどの計測機器を設置。より精度の高い計測法でデータを収集した。（松村智裕）

JAXAは都心部でヘリコプターを運航する場面に大きな問題となる離着陸時の騒音について研究。周囲に雑音の少ない同公園での騒音試験では、全長約14メートルのヘリコプター「MuPALe（ミュパル・イアシロン）」

「ムリダー」など十数人が実験に携わった。この日は集音用のマイクをクレーンでつるしたほか、滑走路上に等間隔で点在させて実験を開始。ヘリコプターは滑走路上での低高度の飛行やクレーン周辺でのホバリングなどで、「バタバタバ」と特有の飛行音を響かせた。JAXAでは空間に「トンネル・イン・ザ・スカイ」と呼ばれる三次元経路を設定し、理論的に騒音を最小とする飛行速度や降下角度を探る。実験期間は26日までの予定。

いっぱい牧場を営む片岡文洋さんなど、崩和は人材の宝庫。今後もちろつ持たれつ楽しい生活を「とあいさつした。服部さんの発声で乾杯した後、故郷の話に花を咲かせた。ビンゴゲームを楽しんで、最後は紺野さんの紺野さんの万歳三唱で締めくくった。（松村智裕）



あいさつする川原会長



クレーンでつるされたマイクの周辺を滑空する実験用ヘリコプター

クレーンで地上35メートルに機器設置